「気軽に文化講座 in 内子」 平成 27 年度カリキュラム

内子町・内子町教育委員会・愛媛大学法文学部人文学科・講座懇話会　共催プロジェクト

開催月	講　座　内　容	講　師
6月18日(木) 午後7時	**伝統芸能と20世紀ヨーロッパ演劇理論が出会ったら？** ヨーロッパでは、古代ギリシアの昔から「演劇理論」という、演劇をつくるためのルールが存在します。これはとりわけ20世紀に大きく変化し、実験的な演劇を数多く生みだしました。ところが、こうした目線から日本の演劇を見ると不思議なことがあります。数百年も前に形式の定まったはずの日本の伝統芸能が、20世紀のドイツのブレヒトの演劇理論と響き合うところがあるのです。伝統芸能という入り口から、ブレヒトの「異化」の理論に分け入ってみましょう。	演劇学 講師 **中筋　朋**
7月16日(木) 午後7時	**内子座文楽を楽しむために** 今年の上演演目である「義経千本桜」について概説し、鑑賞のポイントを紹介します。「すしやの段」には主従のドラマ、親子のドラマがたっぷりと描かれます。「道行初音旅」では人形による舞踊も楽しめます。文楽の魅力がどこにあるのか、「義経千本桜」を通して探ってみたいと思います。あわせて文楽入門として、大夫、三味線、人形の三業から成り立つ文楽の特徴についても解説します。	日本文学 教授 **神楽岡　幼子**
8月20日(木) 午後7時	**チーズと乳製品の食文化 ― 内子のチーズから日本と世界をみる** チーズや乳製品は日本の食生活にすっかり溶け込み、日本国内でも各地でチーズ工房が増え続けそのレベルも急速に向上しています。しかし、四国ではチーズ工房の数が少ないこともあって、いまだ表面的な知識しか普及しておらず、地域の食文化としても深められていない状態にあります。最近誕生した内子町産のチーズを通して、日本と世界のチーズや乳製品の食文化を学び、その価値を地元のみなさんに知ってもらいたいと思います。	社会学 准教授 **野崎　賢也**
9月17日(木) 午後7時	**マーケティング入門一歩前** 具体的な事例を交えながら、マーケティングに関する初歩的な内容を解説します。「マーケティング」とは、単なる「売るための技術」ではありません。最終的な目標は、買い手の生活を豊かにすること（価値創造）です。それを実現するために、作り手／売り手はマーケティングという知恵を借りる必要があるのです。まずは身近な事例から考えていきましょう。	地域づくり論　准教授 **大谷　尚之**
10月15日（木） 午後7時	**赤ちゃんの顔認識** 誕生から1年の間に視力は急速に成長します。これまでに、誕生時の視力は非常に未熟であるものの、誕生時からすでに赤ちゃんは顔を見分ける能力を持つことが明らかにされてきました。赤ちゃんの認識を探る研究からわかってきたことについてご紹介したいと思います。	心理学 准教授 **大塚　由美子**
11月19日（木） 午後7時	**明治時代の海外報道と伊予の言論人** 日本近代がはじまった明治時代、列島社会は広く世界に開かれました。人びとの往来とともに、地域にも様々な海外情報がもたらされます。当時最も影響力のあったメディアである新聞は、世界情勢をどのように伝えていたのでしょうか。伊予宇和島出身のジャーナリスト村松恒一郎・青山好恵兄弟の活動を通じて、1900年前後の朝鮮報道のあり方を探ってみましょう。	日本史 講師 **中川　未来**
12月17日（木） 午後5時40分	**〈ミニ・シンポジウム〉四国遍路と世界の巡礼** 昨年は四国4県で、四国遍路開創1200年記念事業が開催され、今年は四国遍路が「日本遺産」に認定されるなど、四国遍路を世界遺産にという動きが加速しています。愛媛大学でも4月に「四国遍路・世界の巡礼研究センター」が開設され、四国はもとより全国でも唯一の巡礼研究センターとして、学術面から世界遺産化活動を支援することになりました。このシンポジウムでは、四国遍路の最新研究を紹介するとともに、世界の巡礼と比較しながら、四国遍路の世界遺産化について考えてみます。	日本史 教授 **寺内　浩** 日本史 教授 **胡　光** 司会:社会学 准教授 **野崎　賢也**
1月 予定	内子町	未定
2月 予定	内子町	未定
3月 予定	内子町	未定

○　場　所：内子自治センター

○　受講料：年会費　3,000円。ご興味のある講座のみの受講も可（各講座　500円）。

○　問い合わせ：内子町教育委員会　自治･学習課　℡ 0893-44-2114